

# GOITの追加密室の説明

## 医療支援求める野党 政府は応ぜず

今は医療機関への支援が優先ではないか。政府が観光支援策「Go To トラベル」に3119億円の追加支出を閣議決定した11日、衆参両院の予算委員会理事懇談会では野党側が見直しを要求した。しかし、政府は国会審議が必要ない予備費で処理し、修正にも応じない考えだ。

予備費からの追加支出を政府側が説明した予算委の理事懇。正式な審議の場ではなく、非公開で議事録も残らない。野党側によると、衆院では財務省の矢野康治主計局長が「12月にも予算が枯渇する。第3次補正予算では間に合わないため、予備費で執行する」と理由を述べると、野党筆頭理事の立憲民主党の辻元清美氏が主張した。

「『Go To』の予備費には反対だ。医療支援にギアチェンジすべきだ」

同党の奥野総一郎氏は、3119億円の積算根拠が、政府の分科会が見直しを提言する前の11月上旬の調査に基づいており、感染拡大地域でのトラベルの一時停止を前提にしていることを問題視。「国民に誤

ったメッセージを発することになる。少なくとも年末年始に向けて停止すべきだ」と指摘した。

立憲、共産、国民民主の3党の議員は、感染拡大で疲弊している医療機関や医療従事者への支援策を優先するよう見直しを求めた。

政府は医療支援について、緊急包括支援交付金で3兆円を支出したことを根拠に「十分支出している」と主張した。しかし、実際に医療機関まで届いているのは6千億円にすぎない。

辻元氏が「支援が目詰まりしている。看護師への支援などを早くやるべきだ」と主計局長に迫ったが、下を向いて応じず、同席した主計官が「予算は足りている」と主張したという。

野党側から「Go T

も予算が足りなくならないよう積んでおくということでは」と問われた主計官は「緊急性があるから」と回答。「では医療はどうなのか」と詰められると、「医療は大丈夫です」と繰り返したという。

菅政権は臨時国会中はコロナ対策の補正予算案を示さず、閉会後に審議が要らない予備費の執行に踏み切った。野党側は予算委理事懇での説明にとどめるのではなく、「きちんと菅義偉首相が出席した予算委の集中審議をすべきだ」と要求。しかし与党側は消極的で、現時点で開催の見通しは立っていない。

(小泉浩樹)